

2026年3月期 決算、10年 VISION・中期経営計画 説明会(WEB 会議) Q&A サマリー

【2026年3月期 決算に関する Q&A】

Q:27年3月期の業種別・海外市場の見通しについて

A:半導体市場は、生成 AI 関連向けで設備投資の拡大が続き堅調に推移するとみております。自動車や工作機向けの設備投資は、緩やかに回復すると予想しておりますが、二次電池向けでは低調に推移するとみております。また、ASEAN では、半導体製造関連市場向けの需要が拡大しております。

Q:27年3月期の業績予想における上期・下期のバランスについて

A:半導体向けにおいて前倒し受注が増加していることから、お客様への納入時期が不透明であり、売上高の予想が困難なため、上期・下期での業績予想は開示しておりません。

Q:足元の工場稼働率について

A:半導体向けの製品を製造している主要工場において、稼働率は高い水準を維持しております。また、新工場の稼働率も上昇傾向です。

Q:中東情勢に伴う部材の調達状況について

A:現時点において業績に与える大きな影響はございません。引き続き、不透明感が高く注視していきます。

【新10年 VISION・新中期経営計画に関する Q&A】

Q:10年 VISION の数値目標に対する考え方について

A:新10年 VISION および新中計では、特に利益率の向上を重視しております。数値目標については、途中で上方修正も見据えながら取り組んでまいります。ROEについては、収益性の改善に加え、資産回転や資本効率の向上を通じて、10%を上回る水準を目指してまいります。

Q:中期経営計画の数値目標である売上高、営業利益率について

A:前期中計と同様に、需要が急増する局面でのスタートとなっており、その後は業界特有の波を踏まえた計画としています。営業利益率は設備投資や新工場の低稼働の影響を織り込み低めに設定していますが、想定以上に売上が増加した場合には、稼働率の上昇により改善を見込んでいます。

Q:中期経営計画の売上高目標における自動機と機器の内訳について

A:自動機と機器の売上高比率は概ね 1:9 と考えています。

Q:中期経営計画における ROE の考え方について

A:総資産回転率の改善を図り、ROE10%以上の水準を実現していきたいと考えております。

Q:高付加価値製品について

A:お客様に密着し、共創を通じた商品開発により、高付加価値ユニット製品の比率を高めてまいります。
あわせてメンテナンス・サービスも展開し、収益性の向上を図ってまいります。

Q:中期経営計画の売上達成に向けた生産能力の状況について

A:前中期経営計画では新工場などへの投資により生産能力を拡大してまいりました。その結果、現中期経営計画の売上高目標に対しては、十分な能力を有しておりますが、更なる需要拡大を見据え、自動化や生産エリアの増床なども予定しております。

Q:設備投資の計画について

A:今期の設備投資は 80 億円を予想しています。中期経営計画では、400 億円強と想定していますが、需要の状況に応じて柔軟に設備投資を実施してまいります。

Q:自社株買いに対する考え方について

A:自社株買いについては時期や規模等を勘案しながら、実施していきたいと考えています。

以 上